

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ

2022年3月6日(日)

黒田 禎一郎

主 題：「あなたの態度はどうですか」

—罪に対して—

テキスト：第一ヨハネの手紙1章8～10節

はじめに

- ・先月、「北京冬季オリンピック 2022」が開催されました。
日本選手も大活躍したパフォーマンスが記憶に残り、じつにすばらしい思い出となりました。私はメダルを獲得した選手たちのエピソードをニュースで聞く程度でしたが、それでも感動を覚えました。
- ・一方、ドーピング問題もありましたね。選手が不正薬物を摂取していたという理由から、残念ながら、オリンピック参加資格を失った選手もいました。
- ・オリンピックは4年に一度開催されるスポーツの祭典です。オリンピック選手は、オリンピック・ルールを守りプレイすることが求められます。すなわちオリンピック選手らしく、大会でわざを競い合います。
- ・ところで、パウロは信仰生活の歩みをランナーにたとえました。
1 コリント人への手紙9章
9:25 競技をする人は、あらゆることについて節制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのです。
9:26 ですから、私は目標がはっきりしないような走り方はしません。空を打つような拳闘もしません。
- ・ヨハネも、生ける真の神を信じるキリスト者は、光の子どもらしく歩むことを勧めました。そして次のように述べました。
1:7 もし私たちが、神が光の中におられるように、光の中を歩んでいるなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます。
- ・神との縦との交わり、兄弟姉妹との横の交わりを持って、喜びのある幸いな人生を歩むこと勧めました。それはイエスをキリストと信じた人の特権です。それがキリストの御血の力による歩みのことです。
- ・今日のテキストは8節から10節です。ヨハネはここで、私たちの側の罪に対する態度について述べています。神が備えてくださったキリストの御血に

は、罪の赦しに対し無限の力があります。では、私たちの方は、罪に対して
 どういう態度をとるべきでしょうか。

- ・ヨハネは、ここで絶対にとってはならない態度を2つと、とるべき態度を1
 つ挙げました。一緒に考えてみましょう。 2点

大切なポイント

1. とってはならない態度

1) もし、罪がないと言うならば

1:8 もし自分には罪がないと言うなら、私たちは自分自身を欺いており、私
 たちのうちに真理はありません。

- ・「もし自分には罪がないと言うなら」という表現は、「罪そのものを持って
 いない」、「罪の心を持っていない」という意味です。そこで復習しま
 すが、聖書が教える「罪」とは元来「的外れ」という意味です。神というお
 方(的)向かい歩むべき存在でしたが、生まれつき神を知らず、神から離
 れ歩んできました。的外れです。

- ・ですから、私たちは生まれつき罪の性質(根)を持っています。聖書は次の
 ように述べています。ローマ人への手紙3章

3:10 次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。一人もいない。

3:11 悟る者はいない。神を求める者はいない。

3:12 すべての者が離れて行き、だれもかれも無用の者となった。善を行う
 者はいない。だれ一人いない。」

3:13 「彼らの喉は開いた墓。彼らはその舌で欺く。」 「彼らの唇の下には
 まむしの毒がある。」

- ・いったい、罪がないと誰が言えるのでしょうか？ ここに「私たち」と書かれ
 ていますから、ヨハネは自分も含めています。そして、当時のクリスチャン
 の中にも偽教師に教えられて、自分には罪がないという考え方を持っていた
 人々がいたのかも知れません。
- ・しかし、そのように尋ねなくても、人間の心の中には「私には罪はない！」
 と言い、自分を美化する心はないでしょうか？ 悪いのは自分ではなく、他
 人だと決め込む性質です。自分を被害者の立場に置きます。「罪がない！」
 という叫び声は、そういう心から出てくるものです。
- ・しかし聖書は「**私たちは自分自身を欺いており**」と言います。本当の自分の
 姿から目をそらしています。私たちは神の目を欺くことはできませんが、自

分の目を欺くことはできます。自分を欺き、自分の虚像を造り上げ、自分の像に膝まづいているのです。

- ・クリスチャンでも、自分を正しく映し出す聖書という鏡から遠ざかろうとします。しかしそうするなら、真理からもどんどん遠ざかることになります。キリスト者が神の前で正直に歩まないならば、真理からそれてしまいます。
- ・もし、自分に罪がないというならば、自分を欺くことになりますね。本当の自分を見つめることはできなくなります。罪に対する間違った態度は、もうひとつあります。

2) もし、罪を犯したことがないというならば

1:10 もし罪を犯したことがないと言うなら、私たちは神を偽り者とする
 になり、私たちのうちに神のことばはありません。

- ・第一の罪の態度は、「自分には罪はない」という態度です。8節の「罪」は単数で書かれ「根」（根拠）、すなわち「罪の性質」のことです。しかし、
- ・第二の罪の態度は、「罪を犯してはいない」という態度です。すなわち「罪の心は持っていない、自分は罪を犯したことはない」という考えです。9節の「罪」は複数で書かれて、「実」すなわち罪の性質から生まれる行いのことです。
- ・もし、罪はない、罪を犯したことはない、と考えるならば、きよめられる必要はなくなります。

3) 神の前に正しい人

- ・ルカの福音書18章には次のように書かれています。

18:9 自分は正しいと確信していて、ほかの人々を見下している人たちに、イエスはこのようなたとえを話された

18:10 「二人の人が祈るために宮に上って行った。一人はパリサイ人で、もう一人は取税人であった。

18:11 パリサイ人は立って、心の中でこんな祈りをした。『神よ。私がほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦淫する者でないこと、あるいは、この取税人のようでないことを感謝します。』

18:12 私は週に二度断食し、自分が得ているすべてのものから、十分の一を献げております。』

18:13 一方、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようとせず、自分の胸をたたいて言った。『神様、罪人の私をあわれんでください。』

18:14 あなたがたに言いますが、義と認められて家に帰ったのは、あのパリサイ人ではなく、この人です。だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるのです。」

- ここに2人の人が登場します。①1人はパリサイ人、②もう1人は取税人でした。ところが、この2人には違いがありました。
 - ① パリサイ人は、モーセの律法を守り、祈り、断食、献金をしていると主張しました。ですから、自分は何もやましいことはないという姿勢です。
 - ② 取税人は、真反対でした。税の不正な徴収で人々からお金を奪い取っていました。しかし彼は正直に「神様、罪人の私をあわれんでください。」と告白しました。
- イエスはこのたとえで、何を教えられたでしょうか。それはパリサイ人のように自分は正しいと言い、他人を見下げている人は神の前に正しくないということです。
- 皆さん。もし、私たちが1日祈りをしないことがあれば、それは罪を犯さない人です。私たちは朝に夕に、いいえ、昼間でも、いつでも罪を犯す弱い存在だからです。ですから、罪の赦しを神に求める必要があります。たとえば、
 - 私たちは「主の祈り」の中で、次のように祈ります。
マタイの福音書6章
6:12 私たちの負い目をお赦してください。私たちも、私たちに負い目のある人たちを赦します。
6:13 私たちを試みにあわせないで、悪からお救いください。』
 - このように「主の祈り」を祈りながら、実際、朝に、夕に祈っていないならば、それは主に背を向ける行為です。そして、その信仰は、いったいどんな信仰でしょうか。人間は弱い存在です。神を信じる私たちもそうです。
 - イエスはあわれみ深くシモンに言いました。ルカの福音書22章
22:31 シモン、シモン。見なさい。サタンがあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って、聞き届けられました。
22:32 しかし、わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。
- 自分には罪がない、自分は悪くない、という姿勢はとってはいけない態度です。弱い存在である私たちは、主を恐れる必要があります。ヨハネは次に、とるべき態度を述べました。

2. とるべき態度

1:9 もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

1) 罪の告白

- ・ヨハネは「**私たちが自分の罪を告白するなら**」と述べました。しかし、この告白が問題です。理由は私たちの内側に、罪の深い根が潜んでいるからです。それが人の性質にもなっています。

① 罪を「隠す」性質

もう説明は不要です。今の時代も、国と民族、言語が異なっても、私たちは罪を「隠す」性質があります。アダムも、ダビデもそうでした。

② 「言いわけをする」性質

自分はそういう性質だからしかたない、他人もやっているではないですか。他に良いこともしているのですから、少しぐらいいは多めに見てくださいよと。メンツを立てて欲しいと。必ず償い(穴埋めを)するからと言います。

③ 「わびる」(陳謝) 性質

今後、2度と行いませんからと言ってわびます。時には泣いて、時には土下座してわびます。そして、赦しを請います。

- ・皆さん、謝りさえすれば赦されるという考えは、私たちに根強くあります。しかし、これらは神に対しては何の効力もありません。神が「赦して」くださるのは、私たちの涙や決心に同情したからではないからです。
- ・ただ一つ。イエス・キリストの十字架の御血のゆえであります。

1:7 もし私たちが、神が光の中におられるように、光の中を歩んでいるなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます。

- ・神が赦しを与えるために求めておられる条件は、「**私たちが自分の罪を告白する**」ということです。それを神が求めておられることです。
「**自分の罪を告白する**」とは、別訳では「言い表す」となっていますが、原語では「同じことを言う」という意味です。心にある事実をそのまま神に申し上げることを指します。私たちは毎日罪を犯しますから、複数の罪がありますから、「同じことを言う」ということです。それが告白するということです。
- ・私たちがこのみことばのように、自分の罪を告白するならば、神はどう応答くださるのでしょうか？

1:9 神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義か

らきよめてくださいます。

➡ ここに「罪」の赦しが実現します。

- ・神にしかできない罪の赦しです。ある方は、そんなに簡単に罪が赦されるのだろうか、と思われるかも知れません。はい、神にあって赦されます。神は人を赦す権威をお持ちであるからです。

2) 神の権威

- ・神は義の土台に基づいて、罪を赦す権威をお持ちです。罪からの救いについて、聖書は次のように述べています。

① ローマ人への手紙 3 章 2 5 節

3:25 神はこの方を、信仰によって受けるべき、血による宥めのささげ物として公に示されました。ご自分の義を明らかにされるためです。神は忍耐をもって、これまで犯されてきた罪を見逃してこられたのです。

- ・神はこれまで忍耐をもって罪を見逃してこられました。そのような旧約聖書時代は終わりました。イエス・キリストが来臨し、神に真の捧げものが捧げられたからです。イエスをキリスト（救い主）と信じるならば、神の権威によって罪が赦されます。聖書は次のように語っています。

② 詩篇 103 篇 1 2 節

103:12 東が西から遠く離れているように主は私たちの背きの罪を私たちから遠く離される。

「東が西から遠く離れているように」とは、両者が二度と出会うことがないように、罪を遠ざけてくださいました。

③ イザヤ 44 章 2 2 節

44:22 わたしは、あなたの背きを雲のように、あなたの罪をかすみのように消し去った。わたしに帰れ。わたしがあなたを贖ったからだ。」

厚い雲で覆い隠すように、それを拭いとってくださいました。

④ エレミヤ 31 章 3 4 節

31:34 彼らはもはや、それぞれ隣人に、あるいはそれぞれ兄弟に、『【主】を知れ』と言って教えることはない。彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るようになるからだ——【主】のことば——。わたしが彼らの不義を赦し、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ。」

神はもはや思い出すことはしないと誓われました

- *このように、神はイエス・キリストによって救いの道を成就してくださいました。それは神の救いのご計画でした。

- ・神の前に罪を告白し、罪が赦された人は、もう罪の責任を問われることはありません。完全な罪の赦しが成就したからです。なんとという幸いでしょうか。

3) キリスト者の立場

- ・ヨハネはユダヤ人として「贖いの日」をしばしば思い出したに違いありません。その日、1人の大祭司が神殿の至聖所にはいりました。そこでは、地上における神の栄光がケルビムの間に輝いていました。彼は「契約の箱」の前を行き来し、その光の中を歩いていたのです。
- ・至聖所に入るのに、不注意であったり無関心であったりすることは考えられません。大祭司は至聖所で神の前に立ちました。これこそ光の中を歩むということです。「贖いの日」に神の前に出ることができたのは、1年にたった1人だけでした。
- ・それが今では、すべての神の子どもが神の前に出て、最もきよい光の中を歩むことができるのです。彼らは御座の光をみな同じように共有しているからです。
- ・イスラエルの民はかつて出エジプトし荒野を旅しました。その時、神は昼は雲の柱、夜は火の柱として前に立ち先導してくださいました。光に先導されて歩む人こそ、神の子です。ヨハネはそれを強調しています。
- ・イエスはヨハネ福音書8章12節で言われました。

8:12 イエスは再び人々に語られた。「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます。」

- ・聖書は私たちの立場を次のように述べています。ローマ人への手紙3章
3:23 すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、
3:24 神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。
- ・なんとという幸いなことではありませんか。神の前で値のない者が、神に愛されています。そして「罪」を悔い改めることによって、不義からきよめられます。それは神が与えてくださる恵みであり祝福であります。

ま と め

主 題：「あなたの態度はどうですか」
—罪に対して—

- 主は今朝も私たちにお語りくださいました。ヨハネは「罪」の問題を取り上げました。神の前で「とってはならない態度」と「とるべき態度」があります。そしてキリストの御血によって罪が赦された人の幸いな立場を述べました。

1:9 神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。
- 権威ある神は、イエスをキリスト（救い主）と信じ告白するだけで救ってくださいます。そして神の子としてくださいます。イエスは言われました。

8:12 イエスは再び人々に語られた。「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます。」
- 皆さん。私たちは神の前でどのような態度でしょうか。神の恵みにあずかった相応しい態度で、今週も歩もうではありませんか。

* God bless you!